京城日報

保存用

大宮島明石街北方で奮戰

ロタ島、砲爆下敵上陸阻止

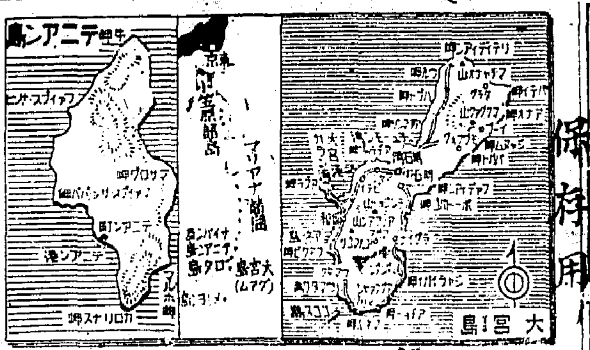
テニアン 敵、わが最後の線へ

大本營發表（昭和十九年八月一日十七時）『マリアナ』方面帝國陸海軍部隊其の後の戰況左の如し

一、大宮島に於ては敵上陸以來明石街及昭和街を中心とし敵に多大の損害を與へつつありしが、現在は概ね明石街北方地區に戰線を縮小整理し奮闘中なり

二、『テニアン』島に於ては北部地區に敵上陸以來寡兵を以て有力なる敵の南下を阻み多大の損害を與へしも昨卅一日敵は遂に同島南部の我最後の抵抗線に突入し來り戰線錯綜しあり

三、『ロタ』島に於ては連日敵の猛烈なる砲爆撃下に在りて敢闘克く敵の上陸を阻止しあり



寡兵よく力戰敢闘

在留邦人も第一線に起つ

マノクワリにまた百九十機

ブラにも大型卅機來襲

ウオツゼに卅機 トラツクに廿機

B29二機喪失

鞍山、大連空襲 敵損害を確認

大和一致こそ完勝の途

ビルマ獨立一周年 小磯首相慶祝放送

天皇陛下 御親電御發送

十氏に御贈勲

記念式典舉行 全ビルマの慶祝

社說 遠藤新政務總監を迎ふ

銃後奉公會に望む

廿一機を擊破炎上

柳州、丹竹、梧州等を痛打

米機漢口盲爆

戰果更に擴大

六將星戰病死

半島の人的・物的資源を 必勝の一點に集中

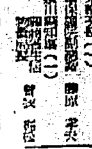
遠藤總監釜山で第一聲

總監・今朝入城

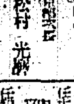
情報課發表 遠藤政務總監は八月二日午前八時京城驛着の豫定である

總督府警務局長 西廣忠雄氏

大阪府知事 池田氏 廣島縣知事 松村氏



池田 清



松村 光磨

地方長官異動

任朝鮮總督府警務局長

原田公使等へ 米兵、不遜の壓迫

帝國、米政府に嚴重抗議

海軍軍務局長 多田武雄中將

滿拓後任總裁 齋藤彌平太氏

ビール西岸激戰

米軍、アバンシユ進出

北佛戰線

今夕全鮮放送

血戰錄

結核 治療 豫防

大陸東洋經濟 八月一日號 内閣の更迭を喜ぶ 中國食糧の重點配給制 蒙疆の新通貨制度 通貨膨脹と資金使用の效率化 朝鮮の自作農創定 滿洲纎維公社の設立 朝鮮經濟の必勝推進につ 小磯新首相に望む 敵前增産と資金動員 東洋經濟新報社

小學館版・新刊書 小波作 桂舟畫 明治のお伽噺 中路ちか著 戰線に母あり 尾崎士郎著 積乱雲 小學館

文藝春秋 八月號 遠環私記 岩田豊雄 民族と文藝 田舍がたり 尾崎一雄 怨敵擊滅の誓ひ 河野省三 をみな蹶つべし 廣瀬政子 戰記 海流 上田廣

世界美術圖譜 第七集まで出來 獨英文化比較論（近刊） 天朝の御學風（近刊） 東京堂

全鮮の交通局工場に 現員徵用を斷行 きのふ令達式を擧行

心氣一轉、增産擊敵へ

江口鐵工局長

職域に御奉公 江口鐵工局長談

提督の最期に感激の眼

神宮に誓ふ・半島の鬪魂 徵兵一周年記念奉告祭

愛國班員よ肚を据ゑて 軍報道部川崎大佐談

大和で勝ち拔け まづ第一に國語を常用

何故に今更

それは國語

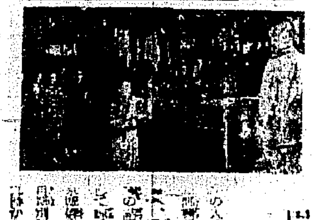
汗に示した半島の意氣 農作隊に軍當局より感謝狀授與

この國民の

戰時備蓄の誇り

息子いざ征け

千人針に半島の母つ



眉宇に漲る滅敵 京畿道第一回訓練所生修了式

日本の兵隊

愛國の熱誠

水漬く屍の教材に

保野仲次郎著 纖維物理學
山形吉吉著 本用船 燒玉機關
大谷擁夫著 醱酵工業
大阪 綜文館

放送

海への書【83】 李無影 作 鄭玄雄 畫

合宿舍監(輔導員)募集
一、資格
一、募集人員
一、待遇
一、面接日及面接場所
八月七日 京城職業紹介所
八月十日 咸興職業紹介所
一、旅費
一、提出書類
一、其他
求人者 日立金屬工場 所在地 咸南興南
咸興職業紹介所

從業員募集
一、求人者 朝鮮住友輕金屬株式會社
一、就業地
一、採用職種 (1)自動車運轉手 (2)女事務員 (3)看護婦
一、待遇
一、宿舍
一、銓衡日時
咸興職業紹介所

株式名義書換停止公告
東邦鑛業株式會社

電話番號變更謹告
辯護士・辨理士 脇鐵一

朝鮮電業株式會社 社債募集

ミシン出張

丸井貿易商會

明治座 若草劇場 京城劇場 和信映畫 東洋劇場 光化門劇場 新富座 大陸劇場 北宮 寶塚劇場 優美館 桃花劇場 中央劇場
日本ニュース 母の記念日 武藏野に鬪ふ 勝利の日まで 女性航路 一番美しく 常分の間 休館
高田の馬場 高田の馬場 土と兵隊 花咲く港 竹槍刀